

令和7年度 第1回伊豆市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和7年10月28日（火）午後3時～

場 所：修善寺生きいきプラザ 第1・2会議室

出席者：委員21名（うち2名WEB参加）（欠席1名）

アドバザー1名、他2名、事務局3名

1 開会

2 会長挨拶

＜市長挨拶＞

最近、八王子市に行く機会がありバスをよく利用している。乗っている方は高齢の方が多く、乗車する際にバス運転手に何か見せていたので、無料での乗車ではないようだったが、福祉バスのようだった。50万都市の八王子であっても公共交通路線の維持に相当苦労しているのではないか。

特に中山間地では車が無いと動けないという状況はあるが、車に乗れない方や観光地である伊豆半島では二次交通がなければお客様が移動できないため、そのようなポテンシャルを活かし、工夫しながら住人も路線バスを利用していいくなど、様々な工夫をしていきたいため、皆様のご意見を賜りたい。

3 委嘱状の交付

4 地域公共交通会議の役割について

5 報告事項

（1）市の公共交通の現状及び伊豆市生活交通ネットワーク形成計画（伊豆市地域公共交通計画）の進捗状況について

＜資料説明＞

・事務局より資料P1～P8について説明

＜質疑応答＞

委 員：P7【事業1】地域ごとの交通システムの再編・導入事業について、令和6年度の実施状況についてどのような取り組みをしているかの概要や実証実験を行った主体側の課題を教えてほしい。また、目標3で令和6年度に検討の実施を行った5か所についてどこでどういったことを検討しているかを教えてほしい。

事務局：実証実験として湯ヶ島地区と月ヶ瀬学区の2地区で買い物支援サービスの取り組みを行った。自家用有償輸送ではなくボランティア輸送という形で実施をした。地域づくり協議会の地域に住む方を募って、週に1度決まった曜日に買い物する場所まで地域づくり協議会のボランティアの方が運転して送るという事業となっている。令和7年度は本格運行を行っている。

委 員：実証実験は昨年行ったが5月16日から本格運行として買い物支援を行っている。湯ヶ島地区と月ヶ瀬学区で行っているが地域づくり協議会の地域に住んでいる

方であれば利用でき、実証実験は無料で行った。週1回の運行で平均して2～3人の利用があり、とても感謝されるため役に立っているという感覚がある。

事務局：5か所は湯ヶ島地区と月ヶ瀬学区以外では、土肥地区、修善寺ニュータウン、中伊豆の中大見地区で取り組まれている団体がある。ボランティア輸送で公共ライドシェアではない小規模な移動支援を行っている。

委員：各種補助事業を行っているが各予算の執行率を聞きたい。伊豆地区で高齢者が関連する交通事故が運転手・被害者合わせて50%を超えていたため、これを減らすことが交通安全を守ることにつながると考えている。そのためにも補助事業を推進することに協力していきたいと考えている。

事務局：令和6年度のいきいきバスについては5割程度となっている。その他については今把握できないため、後日個別に伝える。

会長：日々の活動に補助金を付けることができないが、何かの折にバスを利用してほしいと考えている。現状はまだ利用されなく効果が少ないが地域ごとに取り組みを行っている。

（2）伊豆中学校開校に伴う路線再編後の状況と方向性について

＜資料説明＞

- ・事務局より資料P9～P14について説明

＜質疑応答＞

委員：伊東の負担分が入っていないが、以前伊東市に聞いた際に伊豆市と同じくらいの負担をしていた。早急に対処する必要があると感じている。

事務局：伊東市をまたぐ路線となるため、伊東市と協議していきたい。

（3）ハッピーライドin静岡プロジェクトについて

＜資料説明＞

- ・静岡県地域交通課より資料P15～P27について説明

＜質疑応答＞

- ・質疑なし

6 協議事項

（1）伊豆市生活交通ネットワーク形成計画（伊豆市地域公共交通計画）の延長について

＜資料説明＞

- ・事務局より資料P28～P30について説明

＜質疑応答＞

委員：以前フィーダー交通ということが言われていたが今は全く見えてこない。ダメになったということか。

事務局：フィーダー交通についてはダメになったということではないが、具体的な計画は今のところはない。計画の改訂に合わせ、方向性を検討してきたい。

アドバイザー：いわゆる交通空白地域に対する取組に含まれると考えている。

委員：資料P30の2) 計画改訂に向けた事業項目について、市民アンケートはどのよう

な規模なのか市民全員なのか特定の地域なのかを教えてほしい。ライドシェア等の実証実験については具体的にどの地域で行う予定かが決まっているのか、国で手厚い補助金があるようだが使う予定はあるのか。

事務局：アンケートについての詳細は検討段階だが、日々住民からのご意見をいただきており、中学生保護者アンケートも行っているため、出来るだけ重複しないようにより多くの情報を得られればと考えている。ライドシェアについては具体的には決定していないが、様々な団体へのヒアリングや保護者アンケートなどを参考に決めていきたい。

委 員：新中学校が開校したため、中学生が帰宅の際に集中しており、1便で乗りきれない子ども達が歩道上で待っている状態がある。ヒアリングやアンケートなどの意見でハード整備が必要であれば連携していきたいので情報共有をお願いしたい。

＜議決＞

- ・「計画期間を1年延長すること」について異議なし、承認

7 その他

会 長：その他として、行政の議論は需要側の議題となるため、本日は供給者側の皆さんコメントを一言ずついただきたい。

委 員：標準型のライドシェアについてNHKに出演したが、交通事業者としては芳しくないと発言した。あまり広がらないようにしてほしい。

委 員：全国的にドライバー不足。東海バスも人が足りてない状況は続いている。熱海市の公共交通会議にも出席しており、回覧板に乗務員の募集するチラシを入れてもらえるとのことで連絡がきた。伊豆市と事業者が一体となった取り組みも行っていきたい。

委 員：6月に異動してきたばかりだが、学校や観光、インバウンドなどを対応しながら、伊豆市の公共交通に協力していきたい。10月に天城峠線が下田までの路線を増やして、広域連携が図れるような路線改正も行っている。観光事業も増やし、小学生や幼稚園へのバス教室も行っていたため、今後は高齢者にも行っていければと考えている。

委 員：東海バスの近況として、昨年度は働き方改革で労働時間の縮小があり、運転者不足が深刻化し採用よりも退職の方が多かったが、今年度は採用環境が変化し退職よりも採用の方が増え少し好転した。伊豆全域で学校の統廃合は進んでおり、今まで徒歩で通学していたが公共交通を利用してもらっている状況もある。伊豆市は放射線状にバス路線が伸びているため路線の統廃合が難しい面もある。インバウンドの影響で伊東市と伊豆の国市を結んでいる順天堂病院の通院バスに大きなトランクを持った観光客が長岡温泉に行くといった、インバウンドの動きが読みにくくなっている状況がある。

委 員：中学生が修善寺駅にたまり溢れていると聞いていたため対策が必要である。

会 長：東海市長会で金沢～高山を訪れ、東京から北陸新幹線経由で移動した。実際に乗

車してみて、現在の観光の基軸は東海道ではなく中山道に移っていることを強く実感した。平日でも新幹線・特急ともに満席であり、乗客は外国人だけでなく日本人も多かった。

一方、伊豆半島はインバウンド対応が遅れており、ドイツの旅行代理店でも伊豆の知名度はほとんどない。観光の流れは「東京ー山梨ー長野ー岐阜ー京都」に集中しており、伊豆はその中で取り残されている状況である。観光客がタクシーやバスを利用すれば、事業者や運転手の収入が確保され、住民もその交通を利用できるという好循環が生まれる。

人口減少によって縮小する地域の需要に、観光という大きな市場を重ねることで、公共交通の維持が可能となる。これまで首都圏に近いという恵まれた環境に依存してきたが、今後は意識を改め、観光と公共交通を一体的に考える未来づくりを進める必要がある。公共交通関係者との連携を強化していきたい。

8 閉会